



## 【配付資料】

- (資料1) (仮称) ちよだエコセンター基本構想の策定について
- (資料2) (仮称) ちよだエコセンターの基本的な考え方について
- (資料3) (仮称) ちよだエコセンターの機能(案)について

## 【議事要旨】

[開会]

委嘱状の交付

委員自己紹介

会長・副会長の選任

会長は崎田委員、副会長は高口委員とする。

議題(1) エコセンター基本構想の策定について

◇事務局(仲澤企画調査係長)

資料1、参考資料1、参考資料2に基づき説明

議題(2) エコセンターの基本的な考え方について

◇事務局(仲澤企画調査係長)

資料2、参考資料3、参考資料4に基づき説明

◆崎田会長

資料2、参考資料3、追加資料に基づきSDGsについて説明

議題(3) エコセンターの機能(環境拠点)について

◇事務局(仲澤企画調査係長)

資料3、参考資料5、参考資料6に基づき説明

◆崎田会長

- ・皆さんがどのようなイメージを持っているか、ご意見をお聞きしたい。
- ・普通は「このような場所に、このような建物を建てたい」というように大部分が決まっています、意見を言っても変えられる部分は少ないことが多い。今回は、場所も内容もさまざまな可能性があり、検討の幅が広い。
- ・皆さんから様々なご意見をお聞きし、その中から実現可能なものを複数案絞っていきたい。

◆高口副会長

- ・立地や建物等のハード面と、運営や機能等のソフト面は分けて考えた方がよい。ハード面に

については、第2回での議論になると思うので、第1回である今回はソフト面（中身）の話をした方がよいと思う。

- ・その際、どのように運営されるかということが重要であり、運営主体が早い段階で決まるとよいと思う。
- ・展示などは1年程度で陳腐化してしまう恐れがあり、どのように更新するかなどを考えていかなければならない。

◆崎田会長

- ・今高口副会長より、ハード面とソフト面は分けて考えた方がよいという話があったが、今回は初回なので、両方を一緒に考えた意見も言っていただいても構わない。
- ・例えば、皇居外苑に環境省のレストランがあるが、そのような場所で土地を借りてエコセンターを建てるという提案もあるかもしれない。外観は自然で緑化されたZEBの建物で、海外からの観光客にも体験してもらえそうな施設にするなどのアイデアもある。

◆村上委員

- ・2020年の東京オリンピックまでには、箱物としてのエコセンターの完成は難しいかもしれない。しかし、拠点がなくとも、それまでにできることがあるのではないだろうか。2020年の東京オリンピックはチャンスであり、それを生かしたい。
- ・2016年に大手町につくった「3×3Lab Future」は、実は大手町につくるまでの間、取り壊しが決まっていた富士ビルと日本ビルで1年半程、実験をしていた経験がある。そこでやっているうちに、だんだんと必要な機能がわかってきたという経験がある。仮住まいの拠点をつくるということも1つの選択肢ではないか。
- ・機能（案）を見ると、総花的という印象を受けた。「エネルギー」も「資源循環」も「生物多様性」も、もちろん考えていかななくてはならないが、例えば「エネルギー」など、千代田区の特徴を一番表した機能がほしい。

◆崎田会長

- ・オリンピックまでの間に、こういった内容を先に実施できるといいか？

◆村上委員

- ・SDGsは非常に重要であると思う。例えば、千代田区民は全員SDGsを知っているというようにするのはどうか。「SDGsゲーム」というのがあるが、区内の小中学校で実施してみるとか、簡単なテストを実施して合格者にはバッチをあげるとか、そのようにして区民は皆SDGsを知っているという状態に、あと1年強でできるのではないか。
- ・以前ヒアリングを受けた際に申し上げたが、エコセンターの機能を考えていく際に、ワークショップを活用するのはどうか。

◆崎田会長

- ・SDGsゲームと絡めてエコセンターの機能を考えてもらうワークショップを実施するのもいいかもしれない。

◆高口副会長

- ・建物が完成する前に、管理者、入る「人」を先に決めるというのもいいのでは。その人とエコセンターについて一緒に議論できればよいと思う。

◆窪田委員

- ・私は、20年くらい前に、リサイクルセンター等の拠点を作る際に、お手伝いをした。行政ではできないが、区民という立場でできることを1つ1つやってきた。
- ・「エコ」というと、やはり「面倒」というイメージを持たれている。「エコ」は必要なことであるという認識を広めていくためには、地道に点から始めて面にして立体にするという方向性がよいと思う。

◆崎田会長

- ・運営や中身などを大事にしないと、せっかく建物を作っても空洞化してしまう。これまで地道に活動されてきた様々な方の点を面にするような活動が大事である。
- ・2020年までに建物は完成していないが、中で活動する「人」が育っている状況になったらよいかもしれない。

◆窪田委員

- ・千代田区は、社会福祉協議会やボランティアセンターなどの組織が充実しており、活動できる場所がたくさんある。
- ・大人が活動するにはボランティアセンターなどで十分だが、地球温暖化を見据えながらエコを主に活動している団体やボランティアは少ないのが現状である。これからの環境問題は子どもが一番大事であるため、子どもが活動できるような場所になるとよい。子どもを取り込めれば大人はついてくるが、大人を取り込めても子どもはついてこない。

◆村上委員

- ・我々は、土日などの休みの日に子ども向けのイベントを実施しており、在勤者が子どもを連れてくることもある。子どもを取り込むというのは、重要なアイデアだと思う。

◆崎田会長

- ・中央省庁もこども霞ヶ関見学デーという取り組みをしている。大丸有でこども大手町見学デーを実施してもよいかもしれない。

◆深須委員

- ・千代田区では、区民や在勤者などが集まって地域の課題を考える会議を実施していた。私も参加したことがあるが、そのような場を使ってエコセンターの話をしてもらうのもいいかもしれない。
- ・我々は、千代田区内などで環境に関するイベントを実施しているが、小さなお子さんをお連れのカリヤを積まれた40代くらいの女性が参加してくれる。そのような方々は、環境問題に興味のある方が多く、従来型のエコセンターでは物足りなく思われる方もいるかもしれない。
- ・千代田区の特徴としては、皇居があること、古い街並みを大切にされている商店街があること、大企業で働くサラリーマンがいることなどがあげられる。区民だけでなく、区に集う様々な方が集まるような施設になってほしい。
- ・トップダウンの施設ではなく、住民の方を巻き込んでいくのがよいと思う。

◆高口副会長

- ・具体的にこのようなものがあるといいなというものはあるか？

◆深須委員

- ・高口副会長が言っていたように、展示は陳腐化してしまう。やはり施設を運営する「人」が重要である。人は人に集まる。

◆崎田会長

- ・「人」の活動の輪をエコセンターという「建物」がつつみこむイメージがよい。

◆窪田委員

- ・イベントだけで終わるのではなく、「リピーター」が来るような施設でなくてはだめ。

◆村上委員

- ・いかにコアなファンを作っていくかが大事である。そのような方はSNSなどで発信してくれる。
- ・イベントの案内などをしなくても、口コミで人が集まってくるというのが理想。

◆森山委員

- ・区民、在勤者、観光客、エコセンターの対象を誰にするかでフォーメーションが変わってくるだろう。
- ・先ほど、子ども連れの方がイベントなどに来るといった話があったが、子どもが集まる施設が併設されていると、親子が参加しやすいと感じた。
- ・千代田区内には、秋葉原や神田、丸の内など、特徴がある街がある。場所によって、機能の中身を変えられるというものもあるだろう。
- ・大きなビルだと建設に4～5年はかかる。今から土地を探し始めるなら、10年近くかかる可能性もある。サテライトをいくつか作っておいて、後から1つのビルに集約することも現実的ではないか。

◆崎田会長

- ・1つの大きなビルを作るか、ビルの一角にテナントとして入るか、いろいろな考え方がある。そのあたりイメージを持っている方はいるか？

◆高口副会長

- ・ZEBに関して言うと、テナントとして入ってしまうと、ZEBの実現は難しくなる。
- ・新築はもちろん、既築の建物を改修してZEBに挑戦することも可能性としてなくはない。

◆崎田会長

- ・大規模な事業者はすでに取り組んでいるところが多いが、中小事業者にZEBに取り組んでもらうことが、千代田区の課題であると思う。
- ・既築建物を改修するという話があったが、皆が参考にできないような立派なZEBを作ってもだめだろう。

◆高口副会長

- ・最大でも平均的な建築費の+10%以下、普通は+5%以下に抑えないと厳しいだろう。

◆森山委員

- ・既存の建物を改修するとなると、1回テナントに退去してもらい、工事することになる。そうすると資金をどうするかというのが問題になる。

◆高口副会長

- ・中小ビルのオーナーの関心は、ZEBにすると賃料が上がるのか？というところ。それを証明することが必要である。
- ・エコセンターが中小ビルを借りて改修し、ZEBとしての成果があがったら、元のようにテナントとして使っていく。そして、エコセンターは次の中小ビルに移り、また次のビルに移り、という風にエコセンターがどんどんビルを移ってZEB化を進めていくというのも考えられるかもしれない。

◆崎田会長

- ・現在話題になっているのが「地域エネルギー」、都心の真ん中にある千代田区が電力会社を運営するといったチャレンジは可能か。
- ・第5次エネルギー基本計画には、これまで旧一般電気事業者の記述しかなかった箇所に、いわゆる地域新電力のことが明確に謳われた。

◆高口副会長

- ・2050年までにゼロエミッション社会をどう実現していくか、それを示すことも必要である。

◆村上委員

- ・東日本大震災が起こる前ではあるが、エネルギーの使い方について考えたことがある。
- ・丸の内を中心とする業務地域には企業が多く、昼間エネルギーを使い、夜間はほとんど使わない。一方、区民は逆で、昼間は仕事に行かれているのでほとんどエネルギーを使わず、夜間に使う。これらを合わせると、1日中平準化してエネルギーを使えることになる。
- ・丸の内には1,000kWの太陽光発電があるが、千代田区で大量のエネルギーを創ることは難しい。発電する方のシステムではなく、使う方のシステムを考えることが重要である。

◆崎田会長

- ・エネルギーの話で盛り上がったが、「循環型社会」もエコセンターに期待されている部分である。意見がある方はいるか？

◆窪田委員

- ・リサイクルセンターは、運営する方の知識がないと、「リユースショップ」となってしまう。リサイクルとは、回収して再利用することである。リサイクルとリユースを混同されている方がいる。
- ・3Rの活動で一番重要なのは、根本的にモノを減らすリデュースである。
- ・リサイクルは企業が行う活動であり、リユースは個人でできる活動、そのあたりを踏まえ、情報発信ができればよいと思う。

◆崎田会長

- ・私は、プラスチック戦略の検討にも参加させていただいているが、そこでは、プラスチックの全体的な戦略と、発生抑制自体の取り組みをどのようにしていくかという話がある。
- ・レジ袋の無料配布禁止など、脱使い捨てプラスチックの大きな潮流がきており、ライフスタイルの転換が必要である。

◆村上委員

- ・オリンピックを契機に、転換できそう。

◆高口副会長

- ・区民がどのような生活を望んでいるかということに対応することが大切だと思う。
- ・子どもの健康は「食料」が大切であるが、最近の方は自分で作ったものしか信用しない方もいる。
- ・しかし、農作物を栽培しようとしても、千代田区だと土地が空いていないが、ふと衛星写真を見てみると、屋上はたくさん空いている。
- ・屋上を菜園として緑化していくというのもおもしろいのではないか。
- ・エコセンターを屋上緑化するだけでなく、どんどん周りに広がっていくとよい。

◆崎田会長

- ・菜園にはお花も植えて、ミツバチが飛んできてくれるといい。そこで採れた野菜と蜂蜜でケーキを作るとか、エコセンターにそのための調理スタジオがあるなど、夢が広がる。
- ・生活が豊かになる拠点になるように、子どもを中心に、保護者や見守ってくれるシニア層がいるような場になるとよい。
- ・人が集い、学び、活動するための核があり、その核を皆で育てていきながら、適切な時期に施設を作るとするのがいいか。
- ・「エネルギー」や「プラスチック」も転換期にあり、新しいライフスタイルやビジネススタイルの提案ができる場にしたい。

◇事務局（夏目課長）

- ・本日いただいた様々なお意見をまとめ、次回の会議でお諮りしたい。次回の会議では、機能について具体的な話ができればと思う。

◇事務局（保科部長）

- ・千代田区のエコセンターは従来のものと同じことをしても意味がない。後発の施設は英知の結集が求められる。引き続き、ご協力をお願いしたい。

[閉会]